



# 児童図書研究室だより

平成 29 年 3 月 25 日 発行

Vol.17

## 2016 年 国内子どもの本に関する賞

賞		タイトル	著者	出版社	出版年	請求記号
日本絵本賞	大賞	30000このすいか	あき びんご / 作	くもん出版	2015.6	E/アキ/
	絵本賞	タケノコごはん	大島 渚 / 文 伊藤 秀男 / 絵	ポプラ社	2015.8	E/イト/
		ゆらゆらチンアナゴ	横塚 眞己人 / しゃしん 江口 絵理 / ぶん	ほるぷ出版	2014.11	E/エコ/
	翻訳絵本賞	まって	アントワネット・ポーティス / 作 椎名 かおる / 訳	あすなろ書房	2015.7	E/ホテ/
	読者賞	おひめさまはねむりたくないけれど	メアリー・ルーージュ / さく パメラ・ザガレンスキー / え 浜崎 絵梨 / やく	そうえん社	2015.3	E/サカ/
坪田謙治文学賞		いとの森の家	東 直子 / 著	ポプラ社	2014.10	F69-73/イト14/
講談社出版文化賞	絵本賞	オルゴールのくるくるちゃん	こみね ゆら / 作	講談社	2015.9	E/コミ/
産経児童出版文化賞	大賞	築地市場 絵で見る魚市場の一日	モリナガ ヨウ / 作・絵	小峰書店	2015.12	C675/モリ/
	JR賞	理科好き な子に 育つふしぎのお話365	自然史学会連合 / 監修	誠文堂新光社	2015.2	C404/シセ/
	美術賞	宮沢賢治「旭川。」より	宮沢 賢治 / [原作] あべ弘士 / 文・画	BL出版	2015.2	726.6/ミヤ15/
	産経新聞社賞	すぐそこに、カヤネズミ	畠 佐代子 / 著	くもん出版	2015.9	C489/ハタ/
	フジテレビ賞	あの花火は消えない	森島 いずみ / 著	偕成社	2015.10	C913/モリ/
	ニッポン放送賞	トンネルの森1945	角野 栄子 / 著	KADOKAWA	2015.7	F17-26/トン15/
	翻訳作品賞		いもうとガイドブック	P. 外カーフ / 作 S. パートン / 絵 福本 友美子 / 訳	少年写真新聞社	2015.6
		テンブル・グランディン自閉症と生きる	サイ・モンゴメリー / 著 杉本 詠美 / 訳	汐文社	2015.2	C289/クラ/
日本児童文学者協会賞		トンヤンクイがやってきた	岡崎 ひでたか / 著	新日本出版社	2015.12	F13-127/トン16/
日本児童文学者協会新人賞		おぼけ道、ただいま工事中!?	草野 あきこ / 作	岩崎書店	2015.8	C913/クサ/
		ABC! 曙第二中学校放送部	市川 朔久子 / 著	講談社	2015.1	C913/イチ/
日本児童文芸家協会賞		ひかりあつめて	杉本 深由起 / 著	小学館	2015.3	C911/スキ/
児童文芸新人賞		しゆるしゆるばん	おおぎやなぎ ちか / 作	福音館書店	2015.11	C913/オオ/
		いくたのこえよみ	堀田 けい / 作	理論社	2015.3	C913/ホツ/
児童文芸幼年文学賞		ミルクが、にゅういんしたって?!	野村 一秋 / 著 ももろ / 絵	くもん出版	2015.3	C913/ム/
小学館児童出版文化賞		川床にえくぼが三つ	にしがき ようこ / 著	小学館	2015.7	C913/ニン/
		ちいさなおおきな	夢枕 獺 / 作	小学館	2015.7	E/ヤマ/
福島正実記念SF童話賞	大賞	透明犬メイ	辻 貴司 / 作	岩崎書店	2016.8	C913/ツシ/
ひろすけ童話賞		おならくらげ	ささき あり / 作	フレーベル館	2015.11	C913/ササ/
小川未明文学賞	大賞	四年ザシキワラシ組	こうだ ゆうこ / 作	学研プラス	2016.12	C913/コウ/
野間児童文芸賞		岬のマヨイガ	柏葉 幸子 / 著	講談社	2015.9	C913/カン/
けんぶち絵本の里大賞	大賞	もうぬげない	ヨシタケ シンスケ / 作	ブロンズ新社	2015.10	E/ヨシ/
	びばからす賞	もりのやきゆうちーむふあいたーず	北海道日本ハムファイターズ選手会 / さく 堀川 真 / え	北海道新聞社	2015.12	E/ホリ/
		はなちゃんのみそ汁	安武 信吾・千恵 / はな / 原作 魚戸 おさむ / 文・絵	講談社	2015.9	E/ウオ/
		ママがおぼけになっちゃった!	のぶみ / さく	講談社	2015.7	E/ノブ/
	アルバカ賞	おばあさんのしんぶん	松本 春野 / 文・絵 岩國 哲人 / 原作	講談社	2015.7	E/マツ/
ニッサン童話と絵本のグランプリ	童話の部大賞	日曜日の小さな大ぼうけん	愛川 美也 / 作 みやざき あけ美 / 絵	BL出版	2016.12	E/ミヤ/
	絵本の部大賞	ちかしのなかで	横須賀 香 / 作	BL出版	2016.12	E/エコ/

2016年の国内の主要な児童文学賞で、当館に所蔵している本をまとめました。児童図書研究室にて3月22日(火)から5月14日(日)まで『2016年主な児童文学賞受賞作品』を展示しています。ぜひ、手にとってご覧ください。

# ボランティアスキルアップ講座を開催しました

平成28年6月10日 岡山県立図書館を会場に、平成28年度第1回県立図書館ボランティアスキルアップ講座（児童サービス支援コース）を開催しました。

## 「絵本が育てる大切なもの

### こぐま社50年の歩みを振り返って」

講師 関谷裕子氏（こぐま社常務取締役編集担当）



平成28年3月に満50年を迎えたこぐま社は、「日本の子どもたちに日本の作家・画家による絵本」をつくりたいという創業者・佐藤英和氏の熱い思いから出発した創作絵本の出版社です。字を読むに至っていない子どもが抱きしめて離さない本を作りたいという一貫した方針のもと、これまで約300冊出版した中には、『わたしのワンピース』（1969年の発行から175刷り166万部）などのロングセラー絵本があります。今回はその編集担当の方から、絵本づくりの裏側や、幼い子と絵本への思い、わらべうた絵本創作のきっかけなど数々の貴重なお話をお聞きすることができました。ここではその一部をご報告します。

“絵がお話を語るのが絵本”ということ、『11ぴきのねこ』を例に説明。「夜が明けると大きな魚が骨だけになったシーンを、ラジオで伝えることができるでしょうか」と言われ、思わず納得。美しい手作りの良さを子どもたちに手渡したいため、絵本原画はリトグラフという版画の手法を用いているそうですが、あまりに重版を重ねたため原画は摩滅し、『わたしのワンピース』は描き直してもらったとか。現在も『こぐまちゃん』は贅沢な6色刷だそうです。そんな職人技が、作家と編集者の協力で生み出されているのです。

絵本に挟まっているこぐま社の愛読者カードを送ると、10歳までバースデーカードが送られてくることをご存知ですか。小さな出版社と小さな読者との間には、大切なものが育まれたにちがいありません。子どもが初めて出会う絵本はみな新刊。だからロングセラーを大切に、三代目に読み継がれる読者をもつ絵本をめざしてきたそうです。そんな姿勢に、これからも絶版にしないで継続してほしいと図書館としても共感を覚えます。

赤ちゃん絵本の先駆者であるこぐま社ですが、絵本を与える時期がどんどん早まっていることについては疑問を感じているとのことです。1歳以下の赤ちゃんにとって絵本とは何なのかと考えると、まず親子の密な関係をしっかり作り、そのあとで、さまざまな体験の中のひとつとして絵本があるととらえられます。絵本を広げて親子でゆっくり楽しむことを通して、赤ちゃんの言葉と心は育ちます。つまり肉声で話しかけられることによって、耳で聞く力が養われ、言葉の土台ができ、言葉と絵から感情や美しいものへのセンスが育っていくということです。赤ちゃん絵本は、絵本や物語への助走であり、その先の本を読む楽しさにつながるものであって、絵本を与える時期が早ければいいというものではないとのことです。

また、わらべうた絵本を作ったきっかけは、子どもはわらべうたが好きなので、保育園であきれるほど要求された経験から来ているそうです。一方大人は既にわらべうたを知りません。子どもの機嫌が悪いときも、うたうことで空気が変わり、親子で自然にスキンシップができます。子育てのツールとしてわらべうたを知っていると、子育てが少し楽になり、楽しくなるよということを伝えたかったそうです。伝承なので正しい形はないが、知らない方に実践の助けになるよう、楽譜も付けたそうです。

お話は以下のように結ばれました。楽しんで本を読む人を増やしたいと心から思う。だから子どもが自分で文字がよめるようになって、読んであげること続けてほしい。図書館でも肉声の言葉で語りかけてほしい。本を読んで育った人は、言葉で共感することができるはず。そのためによい本を手渡してほしい。

※児童図書研究室では、5月17日（火）から7月18日（月）まで『子どもが「もう一回読んで！」という絵本』を展示しました。

# 生誕100年 瀬田貞二

『ナルニア国ものがたり』『三びきのやぎのがらがらどん』『かさじぞう』などおなじみの作品を翻訳し再話した瀬田貞二（1916年4月26日～1979年8月21日）は、戦後日本の児童文学の基礎を築き、優れた翻訳や創作、評論を残すなど多大に貢献されました。今回はその生涯をたどり、仕事と精神の一端に触れたいと思います。

## 1. 最初に出あった本

「絵本は、子どもが最初に出会う本です。長い読書生活を通じてひとの読む本のうちで、いちばん大切な本です。その子が絵本のなかで見つけた楽しみの量によって、生涯本好きになるかどうかが決まるでしょう。」

瀬田さんが『絵本論』で紹介しているドロシー・ホワイトの言葉です。小学校入学前に義兄からもらい、くり返しながめで楽しんだという瀬田さんの最初に出あった本、『日本一ノ画噺』中西屋 明治44年 は、杉浦非水／画「イッスンボウシ」などが入った小さな叢書でした。構図を単純明快にした影絵による調和のある美しさが目の底深くしみこみ、後年自身の好みを形づくる深い核心を植えたという経験から、幼い日に受けた強い印象はひとの成形に大きく作用していくのではないかと記しています。また小学校3年の春に見せてもらった、エドモンド・デュラック挿絵の『アラビアン・ナイト』に本物を見た気がし、物語を絵で再現する挿絵の意味と力を知ったと記しています。

## 2. 瀬田さんと俳句

瀬田さんは高校生の頃、連歌・連句の面白さを知ります。大学時代には「萬緑の中や吾子の歯生えそむる」などの俳句で知られる中村草田男に師事します。卒論は芭蕉で、戦時中は兵役で勤務した病院で句会をつくり、戦後は俳誌『萬緑』の創刊に編集者として関わっています。俳号「余寧金の助」の余寧はお母さんの名前ですが、本人曰く「あまりねえ、金の助け」と読むとか。死の直前まで俳句をたしなんでいたそうです。『指輪物語』で、主人公と運命をともにする人物の名前が「はせお」とは、芭蕉の名前であり、『よあけ』は俳句を連想させる文体であると斎藤惇夫氏は指摘しています。

## 3. 終戦、生涯を子どもたちのために捧げる決意

親友の戦死という大きな転機があり、終戦後、夜間中学の教師に復職しますが「解放された機会に私は自らのあらゆる能力と時間を、子どもたちにむかって解放しなくてはならない。これからの時代は、子どもたちに期待するよりないのだから」と決意します。そして教師をやめて、平凡社に入社し8年間かけて『児童百科事典』全24巻の編集に全力をそそいでいきます。まえがきに「この事典は、学問の正確さと、視野の広さを保つこと、問題をいきいきと、まざまざと表すこと、しかも、直接中心をついて簡明であること を、あくまでもめざした」と記しているとおおり、その質の高さは児童以外にも役立つものでした。この事典の執筆に発揮された博識さ、歴史的な位置づけのあざやかさ、本質をおさえた表現力などの真価が広く認められ、その後児童文学の領域で大活躍をはじめます。

## 4. 翻訳

戦後多くの絵本や物語を翻訳した瀬田さんですが、その名訳ぶりは次のとおりです。

原文	瀬田訳
The Three Billy Goats Gruff	三びきのやぎのがらがらどん
Trip,trap! trip,trap!	かたこと かたこと
Trip,trap! trip,trap! trip,trap!	がたごと がたごと
Trip,trap! trip,trap! trip,trap!	がたん、ごたん、がたん、ごたん
And I'll poke your eyeballs out at your ears.	これでめだまはでんがくざし

タイトルもそうですが、見事な擬音で訳し分け、今も人気の絵本です。

## 5. 絵本論

松岡亨子さんが、手っ取り早い入門書としてすすめる『絵本論』は、一から絵本のことを勉強してみたい人にとって力になる本です。第一部はもともと1956～73年福音館書店発行の月刊絵本『こどものとも』の月報のエッセイとして母親向けに書かれたものです。赤ちゃんにとって子守歌やわらべ歌はこちよリズムとなって、教育以前の教育、文学以前の文学の役割を果たすこと、幼い子どもたちは絵本の中に自分を成長させるものや、生きた冒険を求めていることなど、幼い子にとっての絵本の意味、絵本のよしあしを決める規準など、子どもの本としての絵本を見る態度の基本を学ぶことができます。また、具体的な作品に即して絵と物語を技術面から論じ、欧米の絵本の歴史や絵巻物から日本の絵本の歴史をひもとくなど興味深い内容も盛り込まれ、印象や好みのレベルでない絵本を見る目を養うことができるでしょう。日本の子どもの本の歴史については、『落穂ひろい』に詳しいです。

## 6. 昔話の再話について

昔話は語りつがれるうちに無駄なところが削り取られて、人物でも事件でも全部明確な骨太な構成となります。人々はタイプとして躍動し、昔話特有の三つのくり返しが出てくるなど、リズムカルな展開で、好奇心や空想力を刺激し、いちばん単純率直な形で、知恵のエッセンスや美の珠玉が織り込まれていて子どもたちを楽しませるのです。昔話は「あらゆる文学の根幹、子どもの文学の基というべき」と記しています。もちろん昔話は子ども専用ではなく、各地にさまざま似通ったものが伝わっています。耳で聞く昔話とちがう目で読む昔話は、明治以降子どものためにさまざまな再話がみられるますが、瀬田さんの考えとしては「再話にあたって何よりも肝心なことは、よい話型のものを探す、ときには完形に直していく作業です。」とのこと。まして桃太郎が鬼たちと握手する、狼が赤ずきんのおばあさんをたべないなどの、大人のおろかしい教化主義や安っぽい合理化は、子どもにはとってよくないと指摘しています。

## 7. 家庭文庫

瀬田さんは石井桃子さんのすすめで自宅に「瀬田文庫」を開き、子どもと話すことを楽しみにしていました。文庫はご家族によって今でも続けられているそうです

### <参考文献>

- 『子どもと子どもの本に捧げた生涯』斎藤惇夫／著 キッズメイト 2002年  
『この本読んで!』2016年夏号 通巻第59号 メディアパル  
『こどもとしゃかん』2016年秋号 通巻第151号 東京子ども図書館  
『瀬田貞二子どもの本評論集 絵本論』瀬田貞二／著 福音館書店 1985年  
『瀬田貞二子どもの本評論集 児童文学論 上下』瀬田貞二／著 福音館書店 2009年

# ブックガイド紹介



岡山県立図書館では、このたび「ヨムヨムえほん 3歳から5歳向けの絵本ガイド」を発行しました。赤ちゃん絵本を卒業した幼児期に、読んであげたい絵本を集めました。ブックガイドは館内で配布するとともに、当館ホームページにも掲載します。家庭での読み聞かせや絵本選びの参考にご活用ください。

ほかにもこんなブックガイドがあります。

- 「ヨムヨムえほん 赤ちゃんと楽しむための絵本ガイド 2016年版」 2016. 3発行  
「ヨムヨム幼年童話 はじめての読みものガイド 2009～2013年に話題になった本」 2016. 3発行  
「ヨムヨム本の扉 ティーンズ・ブックガイド」 2016. 4発行

4月23日は  
「子ども読書の日」

## ヨムヨム春のおはなしまつり' 17

色をテーマに絵本の読み聞かせと工作を計画しています。ぜひ、ご参加ください。

- ◆平成29年4月22日(土) 14:00～15:30 (受付開始 13:30)
- ◆岡山県立図書館2階 多目的ホール
- ◆先着 40名(保護者同伴可) ◆事前申込み不要 ◆入場無料

お問い合わせ先

岡山県立図書館サービス第一課児童資料班 Tel: 086-224-1286 (代表) Fax: 086-224-1208